

## 比嘉國郎先生、稲富洋明先生、中村義清先生、 おめでとうございます

—比嘉國郎先生沖縄県功労章受章・稲富洋明先生日本医師会  
最高優功賞受賞・中村義清先生旭日双光章受章祝賀会—

常任理事 安里 哲好



稲富洋明先生と民子夫人、比嘉國郎先生と弘子夫人、中村義清先生と弘子夫人

比嘉國郎先生、稲富洋明先生、中村義清先生の栄えある受賞、心よりお祝い申し上げます。ご三名には、昭和から平成にかけて30年近く、本土復帰直後より、保健・医療・福祉における多くの難問や課題を乗り越え、沖縄県の医療そして県医師会を高さ所に導いていただき、心より感謝いたします。ご三名が、祝賀会のひな壇のテーブルに並ぶと、県医師会理事会の風景が頭によぎり、懐かしさと同時に、その頃と同じく尊厳さを感じ、目頭が熱くなるのを感じました。会場溢れんばかりの多くの方々が登場され、受賞を祝い、喜びを共にされました。

比嘉國郎先生が県医師会長の頃、小生は理事会の末席で、2年近くご一緒させていただきました。その頃は、医師国保を担当しておりましたので、県外への出張にお供することがありまし

て、恐る恐る質問をしながら、医療制度改革等も含め、いろいろご指導頂いたのを思い出します。中村義清先生には、学術の領域で多くのご指導を受け、また、地域における医療活動についての見識の高さに、いつも敬服していました。もっと、長い期間、教授・伝授していただきたいと強く思いました。しかし、何かあると今でも直ぐに、小生も含め、県医師会がご指導やご意見を頂いています。稲富洋明先生には、台中市医師公会との交流の時、ご一緒させていただきました。これほど地理的にも歴史的にも身近な台湾を、初めて訪れて、台中市医師公会の先生方と医療制度や医療について（時に政治や生活事情について）話し合うのはすばらしいことかと感じました。他の国の方々と、交流する機会を経験させていただき、視野が広がりました。

ご三名とも、ちょっと白髪が増えた以外は畏怖堂々とされ、そして壮健そのもので、今だ、強いエネルギーを感じます。県医療界や地域社会への、これまでの多大なる貢献に対して深甚より敬意と感謝を表すると共に、ご三名がいつまでもご健勝でご活躍されんことを心より念願いたします。

### 比嘉國郎先生業績紹介

#### 永山孝南部地区医師会長



この度の比嘉國郎先生沖縄県功労章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、生業に及ぼす甚大な犠牲を厭わず、昭和49年沖縄県医師会理事就任を皮切りに、昭和55年常任理事、昭和59年副会長、昭和63年には会長に就任し、28年間にわたり、沖縄県医師会の牽引者として会務運営、事業推進に尽力され、県下の保健・医療・福祉の向上に大きく貢献されております。

会長に就任した昭和63年から、「開かれた医師会」づくりを提唱し、これを様々な形で実践してこられました。

先ずはじめに手がけたのが、地区医師会の三役クラスを県医師会の執行部に起用し、地区医師会との連携を緊密にして円滑なる会務運営を推進しました。

また、チャリティー事業の一環として、「ヘルシーハート・チャリティー写真展」、「愛・ふれあいのメディカルフェスティバル」を開催し、その売上金額を交通遺児育成資金並びに社会福祉施設へ寄付しております。

さらに、県民の健康教育活動の一環として医療情報を提供すべく、琉球新報社の「うちなー健康歳時記」、沖縄タイムスの「命ぐすい耳ぐ

すい」をスタートさせております。

平成8年には情報化時代の到来にいち早く即応し、他の都道府県に先立ってインターネットを活用した医療情報システムを構築しております。

また、平成7年8月には、太平洋戦争・沖縄戦終結50周年記念事業の一環として県より委託を受け、「沖縄県長寿の検証と長寿地域宣言事業」を企画し、国内外より権威ある長寿研究者を招聘して、特別講演、シンポジウム、円卓会議、基調講演、記念講演、記念式典を開催しております。当初より長寿の危機が叫ばれておりましたが、改めて宣言を行うことにより、県民に再認識してもらおうと共に、長寿地域の存続、発展を訴えるものであります。

また、平成12年7月8日、9日の両日にわたって開催された「第25回日本プライマリ・ケア学会」においては、自ら県内大手の企業を直接一軒一軒訪ね、資金調達に奔走されると共に、全国から約2,000人の参加者を動員し、成功裏に導きました。

このように極めて多忙な中、沖縄県医療審議会会長、公安委員会委員長をはじめとして、実に三十数種に及ぶ関係諸団体の委員会委員を歴任され、県行政をはじめ関係各団体の事業推進に大きく貢献されております。

さらには、日本医師会において理事をはじめ、各種委員会委員を歴任され、日本医師会の事業推進にも大きく貢献されております。

以上、特別な功績だけをご紹介いたしました。その他にも、沖縄県医療保健連合（なごみ会）の前身である沖縄県三師会の発足、現在では県内医療関係17団体が加盟する組織に発展しております。高嶺徳明顕彰碑建立、日本医師会移動理事会の開催、沖縄医学生教習所碑再建、九州・沖縄サミットに伴う救急医療支援、沖縄県医師会創立50周年記念事業等、枚挙に暇がありません。

以上のような数々のご功績が認められ、この度沖縄県功労章を受章されました。

平成14年の4月からは沖縄県医師会顧問と

して、引き続き医師会発展のためにご尽力いただいておりますが、比嘉先生におかれましては、今後も益々ご健勝でご活躍されんことを祈念いたしまして、簡単ではございますが業績紹介を終わります。

この度の受賞、誠におめでとうございませう。

**稲富洋明先生業績紹介**  
**名嘉勝男南部地区医師会副会長**



この度の稲富洋明先生日本医師会最高優功賞受賞に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和55年に沖縄県医師会理事就任を皮切りに理事8年、副会長14年、会長4年、合計26年間にわたり、沖縄県医師会の牽引者として会務運営、事業推進に尽力されました。

平成14年の会長就任に際し、「信頼される医師会」づくりを提唱し、様々な形で実践してこられました。

先ず、県民から信頼を得る為には、対外広報活動が必要不可欠であるとし、「県民公開講座」の開催、沖縄県老人クラブ連合会や婦人会連合会等の各種団体の代表者で構成する「医療に関する県民との懇談会」の実施、「マスコミとの懇談会」の定期開催等に努め、県民への適切な情報発信と県民との直接対話を強力に推進されました。

一方、会内では、「医の倫理向上」「自浄作用の活性化」「医療安全対策」等に力点を置き、県内外からそれぞれの専門家を講師に招聘して講演会を開催すると共に、中央から収集した情報を会員に提供し、会員自らが「安心で安全な医療の確保」に取り組むよう促進し、信頼の醸成に努められました。

また、本県は、従来から日本の南玄関として東南アジアとの交流の拠点を目指し種々活動を

行っておりますが、稲富先生は、医師会も、学術団体としてその一翼を担い国際交流の発展に寄与すべきとの信念の元、隣国で歴史的にも結び付きの深い台湾の台中市医師公会に姉妹会締結の申し出を行い、台中市医師公会のご理解を得て姉妹会締結を実現させております。特に平成15年にアジアを中心に猛威をふるったSARS発生時にはマスクを届けると共に、担当理事を現地に派遣し情報収集に当たらせる等、本県のSARS対策に大きく貢献しております。

このように、沖縄県医師会長という極めて多忙の中で、沖縄県医療審議会委員、健康おきなわ2010推進会議委員等、県をはじめ関係諸団体の委員会委員等を歴任され、その数は四十数種に及び、医師会のオピニオンリーダーとして各方面で活躍されました。特に、沖縄県医療審議会においては会長として、県下の医療提供体制の確保に尽力されております。

また、九州医師会連合会では、平成17年度に連合会長に就任され、九州医師会総会・医学会、九州ブロック学校保健・学校医大会をはじめとする諸行事を成功裏におさめると共に、日本医師会においては理事2年、代議員10年、病院委員会2年を歴任され、日本医師会の事業推進にも大きく貢献されております。

さらに、本会の長年の懸案事項でありました会館建設について、県有地との等価交換作業を速やかに進捗させるよう直接沖縄県知事に働きかける等、先頭に立って会館建設に向けて尽力されており、おかげをもちまして、来年秋には竣工の予定となっております。

以上のような数々のご功績が認められ、この度日本医師会最高優功賞を受賞されました。

平成18年4月から沖縄県医師会顧問として、引き続き医師会発展のためにご尽力いただいておりますが、稲富先生におかれましては、今後ますますご健勝でご活躍されんことを祈念申しあげまして、簡単ではございますが業績紹介を終わります。

この度の受賞、誠におめでとうございませう。



## 中村義清先生業績紹介 嘉手納成之南部地区医師会副会長



この度の中村義清先生旭日双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和51年4月に南部地区医師会において、現在の理事にあたる幹事に就任され、以来、幹事2年、副会長6年、会長8年、理事2年、計18年に亘って要職を務められ、南部地域の医療・保健・福祉の向上、発展に多大な貢献を果たされました。特に、昭和59年4月、南部地区医師会長に就任すると同時に同会の法人化に向けて会員相互の団結を図ると共に、診療の合間を縫って自ら煩雑な許認可手続きに精力を注がれました。その結果、昭和59年9月に社団法人の認可を取得するに至り、その設立にあたっての中村先生の功績は極めて甚大であります。

また、南部地区の保健福祉活動の拠点となる医師会館建設に向けて、建設候補地を決定する一方、21世紀の超高齢社会を展望した老人保健施設を医師会付帯事業として全会一致の決定に導いたことは今なお高く評価されております。

また、先生は、昭和63年4月、沖縄県医師会理事に就任すると同時に重要なポストである医療保険を担当し、その手腕を如何なく発揮されました。特に、保険診療のあり方について、県保険課との間に立ち、また各地区の保険担当理事及び両支払機関審査委員と連携して「Q & A」シリーズを発行するなど、会員への懇切丁寧な指導を心がけると共に、本県における医療保険制度の円滑な運営に多大なる尽力をされております。また、平成6年4月から平成8年3月まで常任理事を、平成8年4月から平成14年3月まで副会長を務められ、計14年もの永きに亘り、産業医委員会、地域医療委員会、会費検討委員会、定款等検討委員会、医療保険研究委員会、医事紛争処理委員会、福祉・経営委

員会の各種委員会を中心に医師会活動全般にわたって中心的な役割を担われました。

また、昭和53年4月からは沖縄県医師会代議員を10年間務め、県医師会の事業・運営の円滑推進を積極的に支援され、平成11年4月からは、沖縄県内科医会の会長として、県下の内科医療・保健の向上に尽力されております。

更に、西原町立西原小学校、坂田小学校、県立南部商業高等学校の校医をはじめ、与那原町の児童・生徒を中心とする予防接種担当医として今日にいたるまで38年間にわたって地域保健活動にも尽力されております。

地域における健康講話、健康相談に長年にわたって積極的に参加されると共に、与那原警察署嘱託医を務め、検死業務や署員の健康教育・保健指導にも精力を注がれております。

以上のような数々のご功績が認められ、この度旭日双光章を受章されました。中村先生におかれましては、今般発足いたしました沖縄県医師会会史編纂委員会の副委員長に就任され、これからの活躍も期待されるところであります。先生の今後益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、簡単ではございますが業績紹介を終わります。

この度の受章、誠におめでとうございます。

## 伊波輝美県福祉保健部長 祝辞



比嘉先生、稲富先生、中村先生、この度の栄えある受章誠におめでとうございます。比嘉先生におかれましては、昭和63年に沖縄県医師会長に就任され、沖縄県長寿

の検証と世界長寿地域宣言事業や第25回日本プライマリケア学会の開催と事業推進に尽力されました。また、沖縄県医療審議会会長の他、幅広い分野の団体・機関の要職を歴任され、県行政の推進に大きく貢献されました。稲富先生におかれましては、昭和49年に県内初の医療法人



である医療法人晴明会を設立され、現在まで精神科医療に従事し、精神保健医療の向上に貢献されました。また平成14年に県医師会会長に就任され、台中市医師公会との姉妹会締結に尽力された他、県医療審議会会長等の要職を歴任し、本県の保健医療政策の推進に大きく貢献されました。中村先生におかれましては、南部地区医師会長として南部地域の保健・医療・福祉活動の支援拠点となる、医師会館、老人保健施設の開設に取り組みされた他、県医師会副会長として、各種委員会を中心とした医師会活動全般に大きく貢献されました。また、学校校医として生徒の健診にあたる一方、地域における健康教育等の講演を精力的に行い、地域住民の健康保持増進に尽力されました。比嘉先生、稲富先生、中村先生の保健・医療・福祉の向上に対する多大な貢献に対し、心から感謝申し上げます。

さて、多くの離島を抱える本県にとって、離島医療体制の整備や医師の確保は重要な課題となっており、その解決に向けて県医師会と連携、協力し、総合的な保健医療体制の確立に取り組んでいるところでございます。沖縄県医師会の先生方には、より一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。結びになりますが、比嘉先生、稲富先生、中村先生におかれましては、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたしましてご挨拶に代えさせていただきます。おめでとございます。

**比嘉國郎先生 謝辞**



私共3名揃って受賞の栄に浴しました。先ほど会長からご紹介ありましたように、元県医師会の三役でございます。三人揃ってこのような賞を頂くということは、過去にあったかどうか知りませんが私の記憶の中にはございません。それだけに大変うれし

くございます。本日は私共3名のためにこのように盛大に祝賀会を開催していただきまして宮城県医師会長、役職員の皆様並びに本日の祝賀会にご出席を賜りました会員並びにご家族の皆様にご厚く御礼を申し上げます。私はこの度ラッキーと申しましょ

うございませうか、9月には琉球新報賞、11月には県功労章を受章致しまして正直申し上げて大変に驚いている次第であります。県功労章受章の内容を見ますと医療・保健・福祉の向上発展に尽力したこと、また、医療行政の推進に貢献したこと等が書かれてあります。ということは、会員の皆様を支えられて私が長い間、県医師会の役員として務めさせていただいたご褒美であろうと考えておりまして、会員に代わって私が代表してこの章を頂いたと私自身受け止めております。改めて今日まで私共を支えて頂きました会員の皆様、事務職の皆様にご厚く御礼申し上げます。我が国は高齢社会がどんどん進んでいっておりますが、つい先だっの放送を見ますと、後期高齢者が総人口の10%を超えたというニュースが流れておりました。私自身も今年から後期高齢者の仲間の一人であります。従いまして、「何時何が起こるか分からないよ」ということを家内と時々話しをする年齢になりました。しかし、幸いに今のところ非常に元気でおりますので、欲張りかもしれませんが出来るならばあと10年ぐらいいは元気でいたいと思っております。そして地域社会に少しでもお役に立てればと考えておりますので、どうぞ今後とも変わらぬご支援ご指導ご鞭撻を賜りますよう心からお願いを申し上げます。本日は誠にありがとうございました。







**稲富洋明先生 謝辞**



本日は大変お忙しいところ、私達3人のお祝いにこのように大勢の皆様にお集まりいただき本当にありがたく、心から感謝申し上げます。  
比嘉國郎先生県功労

章受章、中村義清先生旭日双光章受章誠にありがとうございます。私もこの度思いも掛けず日本医師会最高優功賞を受賞しました。身に余る光栄でございます。先ほど来、宮城会長並びに名嘉南部地区医師会副会長より過分なお言葉を頂きまして、また、ご来賓の伊波輝美県福祉保健部長よりご祝辞を賜り、身の竦む思いでございます。去る11月1日、第60回日本医師会設立記念医学大会において都道府県医師会推薦の個人11名の中の一人として受賞して参りました。表彰の内容は保健衛生活動の向上に貢献した功労者となっております。主たる功績内容は医師会活動で、南部地区医師会20年、県医師会26年の間務めさせて頂いたということ、そしてその役職に付随する行政等各関係団体の委員会委員として参加したこと、昭和49年4月に県内で最初の医療法人として糸満晴明病院を開業以来、33年間精神科医療に従事し県内の精神医療保健の向上に寄与したこと等があります。特に昭和63年、県内初のアルコール専門病棟を開業し、増加するアルコール依存症患者の治療を精力的に実施すると共に、県内断酒会の育成に尽力したこと、また、信頼される医師会づくりを目指して、2期4年間ではございますが、役職員が一丸となって取り組み、県民公開講座、県民との懇談会、マスコミとの懇談会を定期的開催し、医の倫理向上、自浄作用の活性化、医療安全対策等に努めてきたこと、更に、平成16年2月には国際交流の一環として沖縄と一番近い隣国の台湾台中市医師公会と姉妹会を締結し、医学・医術・医療制度等の情報交換と相互交流の促進を図ったこととでございます。この度図らずも、受賞することが出来ましたのも、諸先輩方の温かいご



指導ご鞭撻と、役職員が一丸となったご協力、並びに多くの会員の先生方のご支援のおかげだと心から感謝申し上げます。来年は鼠年でございまして、私の当たり年でございます。また、私の両膝も2年前のちょうど昨日手術をして生まれ変わったのでございます。変形性膝関節症で杖なしでは歩けなかったのですが、ご覧のとおり、現在では階段もスムーズに歩けるようになっており、下手なゴルフをどうにか出来るようになりました。これからは月に1~2度はゴルフかカラオケをやってストレスを発散させようと思っております。これからは常に「心に太陽を抱き、唇に歌」という気持ちで頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞこれまで以上のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。最後になりましたがご参集の皆様方の今後ますますのご健勝を祈念し、感謝の言葉といたします。

**中村義清先生 謝辞**



本日は公私ご多用の中をこのように多くの皆様にお集まり頂き、盛大な祝賀会を開催して頂きましたことに衷心より感謝申し上げます。先ほ

どご祝辞を賜りました、伊波輝美県福祉保健部長、宮城信雄会長には身に余るお祝いのお言葉ありがとうございます。また、嘉手納成之南部地区医師会副会長には、過分なご紹介を賜りま

表 彰

して、身の竦む思いをしながら聞いておりました。今回図らずも、秋の叙勲受章者名簿の中に私の名前を付け加えていただく栄に浴し、大変感激致しております。去る6日に知事公舎におきまして、仲井真知事より勲記と勲章の伝達を受けました。翌7日には厚生労働省に行きまして、その中での叙勲受章者の紹介と、副大臣の祝辞がございました。その後皇居において天皇陛下下拝謁の栄誉とありがたいお言葉を頂き、感激の極みでございました。今回の受章は、先ほど稲富先生も述べられたように、私も保健衛生功労ということであります。主として学校保健が長いことと、地域保健が評価されたものと思っておりますが、ご高尚のように一人で出来るものではございません。多くの先輩のご指導、ご支援、学校・保育園・幼稚園の施設の関係者のご協力があって出来たことでございます。高い所から恐縮ではございますが、お礼の言葉とこの喜びを一緒に分かち合いたいと思っております。年数は38年となっておりますが、その

間濃い活動が出来なかつただけにこの章を受けるのに一種のためらいもあり、もっと頑張ればよかったとある意味忸怩たる思いもしたわけがあります。ともあれ、このような重い章を頂くことになりましたので、これを期に今後もこれまで出来なかったことを健康の許す限り頑張っていきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます、お礼の言葉とさせていただきます。

